

2024.11.21 (木)
第 20 回例会
(通算3782回)

2024-2025 年度 釧路ロータリークラブ会報

会長スローガン「地域を愛し、未来を語る ロータリーの輪を広げましょう」

第86代会長 高橋 直人
副会長 吉田 英一
幹事 東堂 光春
編集責任者 クラブ会報・雑誌委員会

例会日 毎週木曜日 12:30 ~ 13:30 夜間例会 18:00
例会場 釧路センチュリーキャッスルホテル
事務局 釧路市錦町 5-3 ミツ輪ビル 2F
☎ 0154-24-0860 ☎ 0154-24-0411

2024-2025 年度
国際ロータリーテーマ



2024-2025 年度
R1会長 ステファニー・A. アーチック
第 2500 地区ガバナー
小谷 典之 (帯広西 RC)

本日のプログラム 夜間例会「創立 88 周年にちなんで」(親睦活動委員会)

次週例会 年次総会(理事会)

- ロータリーソング：我らの生業 ■ソングリーダー：佐藤 伸昭君
- 会員数 105 名
- ビジター
- ゲスト

会長の時間 高橋 直人会長



会員の皆さま、こんばんは。本日は、創立 88 周年記念夜間例会ということで、釧路クラブの歴史についてお話をさせていただきます。

当クラブは 1936 年、昭和 11 年 11 月 23 日に創立いたしました。スポンサークラブは、札幌ロータリークラブ、帯広ロータリークラブです。チャーターメンバーは 30 人です。初代会長は飯田要次郎氏でした。過去に 5 名のガバナーを輩出している歴史と伝統のあるクラブでございます。

ここで 2 年後に 90 周年を迎えますので、各周年の会長のお名前をご紹介します。紛争や戦争で 10 周年は行えませんでした。20 周年からご紹介いたします。20 周年の会長は泉功氏、昨年ご逝去なされました泉敬氏のご尊父です。30 周年の会長は吉田恕氏、40 周年の会長は伊勢芳美氏、50 周年の会長は川口雄氏、60 周年の会長は浅川了一氏、浅川会員のご尊父様です。70 周年の会長は現在パスト会長の青田敏治氏です。80 周年の会長はパスト会長の木下正明氏です。

来週 28 日、来週の例会では、年次総会がございます。そこで 90 周年の会長が決まります。今日ご出席の皆さまは、もちろんですが、次週例会は必ず出席していただきますようお願い申し上げます。本日は夜間例会で

ございますので短めですみませんが会長あいさつとします。

本日はよろしく願いいたします。

幹事報告 東堂 光春幹事

皆さん、こんばんは、幹事報告です。第 2500 地区ローターアクト委員会より第 3 ブロックローターアクト委員会会議のご案内が来ております。メールでも配信させていただきましたが、11 月 30 日 14 時半から釧路プリンスホテルにて開催されます。申込期限が来週月曜日、25 日までとなっておりますので、参加希望の方は事務局のほうまでご連絡をお願いします。幹事報告は以上です。

佐藤 貴之前年度幹事

皆さま、こんばんは。前年度幹事の佐藤です。本日、こちらのクラブ活動実績報告書を皆さまのパーソナルボックスに入れております。これを来週の年次総会で決算報告させていただきたいと思っておりますので、ぜひご確認いただいて中身のほうを精査していただければと思います。以上です。

■本日のプログラム■
夜間例会「創立 88 周年にちなんで」

親睦活動委員会 石井 孝行委員長



皆さま、こんばんは。親睦活動委員会委員長の石井です。本日のプログラム「クラブ創立 88 周年にちなんで」を開催させて

いただきます。

今から 88 年前の 1936 年 11 月 23 日に当時平均年齢が約 40 歳の若いチャーターメンバー 30 名のもと、釧路ロータリークラブは創立されました。道内では 7 番目、国内では 26 番目、世界では 4092 番目に創立され、由緒正しい歴史と伝統が今日に紡がれております。

本日の例会では、皆さまと共に創立 88 周年をお祝いし、2 年後に控える 90 周年の節目に向かい、会員皆さまでロータリーを大いに語り合いながら、楽しく大切な時間にしてまいりたいと思います。

88 周年を迎えるにあたり、小船井パストガバナーより周年記念のお言葉を賜りたいと存じます。小船井パストガバナー、よろしく願い申し上げます。

周年記念のご挨拶

小船井修一パストガバナー

皆さま、こんばんは。早く乾杯に入るために短めに終わらせていただきたいと思います。9 枚パワーポイントを用意しました。昨年も私は例会でお話しさせていただきましたが、昨年のお話も交えながら、古い話と今の新しい話の二つだけさせていただきます。90 年前の話になりますが、戦前の日本のロータリークラブの特質として去年お話をさせていただきました。

アジアのロータリー設立の歴史では、1919 年の 6 月にマニラでスタートして、1920 年 10 月に上海、1920 年 1 月に昔はカルカッタと言っていたコルカタのロータリークラブ、この 3 つのクラブは会員がすべて欧米人。ヨーロッパ、アメリカからの人たちが英語で例会を運営していて、現地の人たちが参加するクラブではございませんでした。

アジアで最初に現地語で、日本語で例会を運営し、全員が日本人のクラブが 1920 年に東京ロータリークラブが設立されております。皆さまご存じのとおり、戦前はヨーロッパを中心とした欧米列強が植民地主義の中で、帝国主義の中で、アジアの大部分が独立をしていない状況の中で、実際に自国の国民が主体的な運営をするロータリークラブを作ったのは東京ロータリー

クラブが最初であったことを皆さまにご理解いただければいいと思っております。

特に三井グループを中核とした財界人、日本銀行、一橋大学学長などで構成されて、地域を代表する経済人で構成されてスタートして、東京ロータリークラブがスタンダードモデルとして全国に波及しました。

1905 年にシカゴで設立されたシカゴロータリークラブは、そういう偉い人たちではなくて一介の弁護士、石炭商、洋服屋、そういうレベルの方たちが設立しておりますが、東京の場合はある意味でレベルの高い人たちが集まってスタートしたことが今も連綿としてその状況が続いていることもご理解いただければと思います。

北海道のロータリーの発展についてお話させていただきます。札幌が昭和 7 年 1932 年 12 月、小樽が昭和 8 年 1933 年 12 月、旭川が昭和 9 年 1934 年 10 月、函館が同じく 1934 年 10 月です。5 番目に帯広ロータリークラブが昭和 10 年 1935 年の 3 月 15 日、6 番目に室蘭、7 番目に釧路、これは 1 カ月ぐらいいか違わないので、同時という感じかもしれませんが、室蘭が 1936 年の 10 月 26 日、釧路が昭和 11 年 1936 年 11 月 23 日、8 番目に北見が昭和 12 年 1937 年 10 月 22 日に設立されております。

戦前に設立された 29 カ所の日本のロータリークラブの中で 8 クラブが北海道で戦前設立されております。地区分轄の歴史です。以前は東日本と西日本の 2 つしかなかったのが、1957 年 7 月に東北北海道の 350 地区がスタートしました。1960 年昭和 35 年 7 月に北海道全体を 1 区として 350 地区が成立し、北海道 1 地区時代で現在の 2500 地区から 3 名のガバナーを過去に輩出しております。両角克治パストガバナー、1965 年嵯峨旻さんは我々のクラブです。1966 年旭川ロータリークラブの岡田さんがガバナーとして北海道全体を管轄しておりました。1970 年の 7 月から現在の 2500 地区と 2510 地区の 2 つに分割され、1986 年には伊藤組の伊藤義郎さんが R I の理事になられています。ちなみに先年亡くなられた清水幸彦先生が 1981 年から 1982 年のガバナーをされております。

もうひとつ確認ですが、先ほど高橋会長が鳴らした梵鐘型のゴング。これは 2510 地区には函館ロータリークラブのみが保有していることを確認しております。2510 地区の地区大会で私が会長代理でお邪魔した時に釧路クラブのゴング持って行き、開会の時に鳴らしたのです。「お持ちの方おられますか」と話したら、函館が持っていました。戦前、札幌ロータリークラブがスポンサーになっているクラブには、札幌が梵鐘型のゴングを寄贈してくれていたのです。小樽とか室蘭の戦前クラブにはあるはずだったのが、金属供出によって失われたとも言われています。2510 地区では梵

鐘型ゴングが札幌にもありませんし、函館の1カ所しかありません。2500地区では帯広にあることは確認しておりますが、旭川にはあるかどうか確認していませんので、後ほど工藤さんが旭川クラブに行かれていますはずですので確認できればと思っています。これが過去の話です。

先月、10月26日に旭川ロータリークラブの90周年がありました。吉田パストガバナーと工藤会員が参加されていますので、1、2分で結構なのですが工藤会員から報告をお願いします。

報告 工藤 彦夫会員

こんばんは。吉田さんの代わりに。僕はあくまでも運転手ということで、旭川の90周年に参加してきました。

式典は、通常どおりに物故会員供養をやって、歴代の会長をやって、永年勤続の人の表彰をやりまして、記念品贈呈で式典が終わりました。その後、すぐに祝賀会やったのですが、短い時間です。満席で遠くの席だったので見えませんでした。

そういう感じで、大した話ではなくて、本当に寂しい周年でした。以上です。

小船井修一パストガバナー



ありがとうございます。吉田パストガバナーからは、表現として「簡素な式典と懇親会だった。記念講演はなかったよ。歴代クラブ会長

への表彰はプログラムで紹介して壇上には上がっていませんでした。永年勤続の方は表彰されていました」と。この写真はインターネットから引き継いだものです。こういう状況の中で、われわれの90周年をどういう形にするかの参考事例として、皆さまのボックスの中にも配布されている「東京六本木ロータリークラブ創立20周年記念例会」のパンフレットの内容について少し説明させていただきます。

東京六本木ロータリークラブ。東京は2580地区と2750地区の2つに分かれていて、2580は東側、2750は西側、渋谷とか港区です。2750地区は現在、水野さんという理事がでている地区で、一番先進的な中核的な地区であります。会員は55名で、例会場は六本木ヒルズ内のグランドハイアットホテルという立派なホテルです。タイトルとして「東京六本木ロータリークラブ創立20周年記念例会」となっています。「記念式典」とか、使わないで形で運営されています。2750では、これが標準的になっていると私は思っております。

第1部、第2部、第3部もあります。第1部は記念例会で1時間、各種委員会記念事業紹介とか奉仕事業紹介、あるいは各種表彰とかです。式典という中では、来賓の祝辞とかさまざまな部分がカットされているはず。東京の場合は偉い人を呼んでいないのです。偉い人というのは、ガバナーとかパストガバナーは呼ばれていますが、区長とか都知事という方たちが呼ばれていないのが一般的です。第2部は記念講演です。今回の場合は尾身茂先生がポリオの話を読まれると案内されています。第3部は記念パーティー、2時間です。食事後のコンサート。普通は式典が終わって、懇親会が終わって、コンサートやって宴会ですが、宴会が終わってからコンサートという逆転現象になっています。こういうことも特徴的と思っています。

こういう形にして欲しいというのではなく、現在の東京ではこういう流れが普通ということを知っていただいて、皆さまが2年後の90周年を見据えて、どうお考えになるか、参考にさせていただければと思っています。

特に私から申し上げたいことは、釧路ロータリークラブの歴史と個性に立脚した周年事業がいいじゃないでしょうか。過去の周年事業と遜色のないプログラムでどうでしょうか。旭川の90周年、簡素でやる方法もあるでしょう。先ほど工藤会員からお話がありましたが、そういう意味で面白い周年をやってもいいのではないかと思いますし、手を抜かない形でやっていただくことが大事なのかなと思います。

もうひとつ、インターネットもそうですけどアップデートというのが必要なのです。周年関連プログラムのアップデート。先ほど申し上げた2750地区のように東京で開催されているのが、今は一般化されつつあります。10年前こうやったからこの流れで行こうというのではなく、今はどういうふうに行っているのだろうかを事例として参考にしたいほうがいいのではないかと私は申し上げたいです。

式典から記念例会への転換、多彩な記念事業、複数委員会による記念事業展開。単純な寄付で良いのでしょうか。例えば記念事業として「植樹で10万円寄付しました」とかもいいでしょうが、クラブの活動という中で奉仕活動を実践していく場の一つとして周年を考えることが大事だろうと私は感じています。

簡単ではありますが私からの報告に代えさせていただきます。ご清聴ありがとうございました。

乾杯のご発声

石田 博司パスト会長

乾杯の前に一言お話をさせていただきますので、座ったままでお待ちください。私も入会して30数年になります。入会する前は「40歳で卒業する」という青年団体に11年間お入りして、



「若者は馬鹿者」というのですが、情熱は溢れているのですが、非常に融通がきかないという、すごく息苦しい感じのする団体でありまし

た。卒業したときに清々したなと思っていましたら、父が「ロータリーに入れ」と言うわけです。「団体活動はもう嫌だから俺は嫌だよ」と言ったら、町内で飲食店をしている方がロータリークラブの会長をやったのが初めてだったと思うのですが、市議会議員もされた中村隆さんが「会長やるので、お宅の息子を入れてくれ」と父のところに来たのです。団体活動にはヘキヘキしていましたので「もう、いい」と言いましたら「仕事だと思って行け」と言うのです。父は上司・社長ですから、会社の社長から行けと言われるとそれ以上何も反論できないのです。

来てみたら、メンバーには自分の親と同じ年の人もいれば、あの頃40歳という若手が少なく、一番若かったのが30代の尾越弘典君です。あとはみんな年上ばかりだったのです。非常にのんびりとしたほんわかとした雰囲気でした。入会して3年程でプログラム委員長を仰せつかったのですが、どこの委員会の副委員長もしたことないし、ましてプログラムは訳わからないので、長老に「どうしたらいいんですか」と聞いたら、「うーん、君の好きにやりましたよ」とおっしゃるわけです。ロータリーはそういうところなのかと思って、配属していただいたメンバーも日銀の支店長さんとかNHKの局長さんとか、ロータリークラブに入らなければ一生接点のない方、大きな企業の出先の方との接触がそこであるわけです。

なるほど、好きなようにやれと言うのですから、うるさくもないし、いいところに入ったなと思っていましたら、入会して10年ぐらいたった時に、他のクラブと合同の例会もあるようになって他のクラブの情報を聞くわけです。他のクラブはうちのクラブのようではないことがわかったのです。うちのクラブがいいのであって、ロータリーがいいわけじゃないのだなと思ったのです。

誰がそういうクラブがしたのかは知りませんが、少なくとも今、若手の人たちが入会する度に多くの方が「いいクラブに入った」と喜んでくれるのを聞くと、僕が褒められた気がして嬉しいのです。その責任と義務としては、先輩たちがいいクラブにしてくれたものを継続していく、そして若い人たちにバトンタッチをしていくって義務と責任があると私は思っております。

乾杯は、いいクラブを作ってくれた先輩と今日一緒に祝う現役、次の世代の方たちに対しての敬意として乾

杯をしたいと思います。ご用意をお願いします。では先輩と皆さまに敬意を表して「乾杯」

親睦活動委員会 石井 孝行委員長

ここで、釧路ロータリークラブ在席周年表彰式を執り行います。名前を呼ばれた方は高橋会長より記念品の授与がございますので演台へお進みください。

在席10周年からまいります。

林英樹君、次週に回します。松井聖治君、次週に回します。中島徳政君、次週に回します。池田一己君、次週に回します。瀧波大亮君、次週に回します。浅野清貴君、次週に回します。高橋徹次君（拍手）。

続きまして在席20周年表彰にまいります。

舟木博君（拍手）、天方智順君（拍手）、甲賀伸彦、次週に回します。

続きまして在席30周年表彰にまいります。

青田敏治君（拍手）。

以上となります。

ここで各在席記念者より喜びのお言葉をお願いします。

喜びの言葉

在籍10周年 高橋 徹次君

みなさん、こんばんは。2歳年下の天方君が20周年ということでびっくりしたのですが、私は在席10周年ということですが、あまり



ロータリーには貢献できていなくて恐縮に思っております。3年目くらいに職業奉仕委員会の委員長をさせていただきましてけれども、それ以外は委員会メンバーとして活動させていただいております。

いつかは恩返ししたいと思っているのですが、仕事柄から難しいところがありまして。と言っていたところ、来年からインプラントの全国的な学会の会長を仰せつかることになりまして、職業奉仕ではありませんけれども、自分の仕事をしっかりやりながらロータリーにも貢献できたなと思っています。

10年間の中で記憶に残っているのは、80周年の祝賀会と記念式典もありますが、一番記憶に残っているのは例会に来るときのことです。私は狭い所は苦手な

ので第二駐車場に止めて歩いて来ることが多いのですが、私が入会した時で、清水パストガバナーが84～85歳くらいのころでしょう、昔からお顔は存じていたので第二駐車場から話しながら歩いて昼の例会に向かわれていて、「足腰が弱っているから健康のために歩いているのだ」と言われました。清水先生のようなパストガバナーであれば、第一駐車場に止めて肩で風を切って歩けるような方なのに、自分のことを考えながら歩かれていた姿に感銘したことが一番の記憶です。

いま、高齢化社会になって来ています。21パーセント以上が超高齢化社会といいますが、日本は超高齢化社会です。高齢化率はどのようにして決まったかという、1965年にWHOが、その時のヨーロッパの男性の平均寿命が67歳でしたので「65歳を高齢者と言おう」としていますが、医学的、生物学的根拠は何もないと言われています。

昭和24年に「サザエさん」が始まっていますが、浴衣を着て頭が吉井先生のような「波平」さんは、あの当時は54歳です。ですから今とは時代がとても違うと感ずるのです。釧路ロータリーの皆さんがとても健康的でアクティブだと思っています。そのためには、『努力すれば必ず成功するわけではないけれども、成功者は努力をしている』という言葉が好きです。健康に留意したから必ず長生きできるわけではないけれど、長生きされている方は健康に留意されていると感ずています。

清水先生も好きなアメリカの詩人が言う言葉で、『青春とは 人生の中のある時期を言うのではなくて 心の持ち方をいう』。松下幸之助先生も『青春とは 心の若さだ』と言っています。ですから、清水先生は、年をとられてからもズーッと青春を生きておられたのだなと思っております。私も、そういうロータリアンになりたいな。雑駁になりますが私の挨拶とします。ありがとうございます。

在籍 20 周年 舟木 博君



皆さん、こんばんは。死に損ないの舟木です。何とかこの年まで生きて来られたので、今、それを一番感謝しています。

生きていれば、いいことが結構ありました。死んでしまえば、今ごろはミソクソに言われていると思いますが、まだ生きてるので言われたら反撃ができますので。

この「88」という数字です。妻が在籍中に亡くなって、親父も亡くなって、私も4年前に死にそうになり

ました。妻が亡くなって、今年が17回忌を行いました。その後、何がいか分かりませんが四国を歩くようになって、4,000kmくらい歩きとおして、四国の各地のロータリークラブにもメイクアップであちこち回っております。

人生は、やっぱり節目、節目で変わるものですね。ロータリークラブで一番柄の悪い舟木がきちんと「般若心経」を覚えて、いろいろな梵語も覚えて、お寺で30分の読経から何からできるようになりました。

全国のいろいろな方と知り合いになって、一番思い出に残っているのは、東北の大震災の時にすごく多くの方が四国のお遍路を歩き始めたのです。その時、悲壮な方の姿を見ました。私が53歳で妻を亡くして「なんで俺だけ」となって苦しんだ時に、徳島でたまたま一緒に歩いた人がいました。その方は40歳くらいでしたが、小学生の子どもがいて奥さんを亡くしていました。奥さんの故郷が徳島ということで歩いていた人に会ったのです。その時、俺に比べたらもっともっと大変な人がいるのだな、この人に会わせてくれたのだと思うと、それから楽な気持ちになって北海道に帰って来たという出会いもありました。

ロータリークラブがいいのは、ホントに20年在籍させていただいて、毎年、何人かが亡くなっていて、たくさんの人と触れ合ったけど、たくさんの人との別れもありました。その中で、ロータリーに入っていなかったらこういう出会いがなかったでしょう。ロータリーに入る前は、私の場合は小さな米屋なので、いつも配達で車の例会場のホテルの前を通過して米の配達をしていました。その時、黒塗りの運転手付きの車がズラッと並んでいて、そこに出入りする人を見ていて、俺の住む世界とは全然違うな、この人たちとは縁がないものと思っていました。

それが、何の縁か知りませんが、入らせていただきました。そして、付き合わせていただいたら、思っていたこととは全然違って、いい人とたくさん出会うことができホントに感謝しています。この感謝の気持ちを持って、あと何年頑張れるか分かりませんが、皆さんと一緒に頑張りますので、よろしく願いいたします。

在籍 30 周年 青田 敏治君

皆さん、こんばんは。30年前の9月に入会させていただきました。

入会したのですが、とても出席率が悪かったです。遊



びに忙しいのと仕事が忙しいので。僕がたまに出た時に幹部をやっていた大先輩に、「これは、毎週でなく

月に1回にできないのですか」と言ったことがあるのです。「ふざけたことを言うな」とカツを入れられました。「それだったら、毎週は出られないけど、4週のうち1回くらいは出るようにするか」という気持ちになっていたのです。それでも、出席率が悪かったです。

どうしたかという、ゴルフの同好会があってゴルフにだけは出ていたのです。スポンサーが亡くなった須貝吉晴さんで、その時には、ここの会長をやっている、そこに行くたびに「お前、俺の顔をつぶすのか」と言われて、ゴルフの仲間がいたので少しずつ出るようになりました。それから「夜の会合に出て来い」と言われて、これには100%出るようになりました。そこで知り合いも多くなって、俺も昼にも出なければという感じになって、そのようにしてきました。

30年前の9月1日に入会した時の会長は亡くなりましたが山本長弘さんでした。出席率は悪かったのですが、30年前のことなど分かるわけありませんから、今年の計画書を開いて何があったか調べました。入ったそのころは悲惨なことが起きていたのです。入った翌月に北海道東方沖地震が発生して、年が明けて1月に阪神・淡路大震災が起きていたのです。それからオウム真理教の地下鉄サリン事件もありました。入会して半年くらいの中に大変大きな災害や事故が続けて出てきました。明るい話題が何もない時に入ったので、それが影響しているのではないかと思えるくらい暗い世の中の時に入会していたのです。

先ほど、会長が言いましたように、2年後にクラブ60周年の記念を浅川さんがやられて、私とその10年後に70周年の会長を受けることになって、最初の出だしからみると、とても考えられないことになりました。

皆さんに言いたいことですが、僕が会長になった時に、西村智久君を幹事をお願いしたのです。とても優秀な幹事でしたね。特に70周年もそうですが会長職を最後までやって来られたのは彼のお陰でしかないと思っています。改めてホントに感謝したいと思います。ウン、ありがとうございました。

僕も高齢になって、死ぬ前に1回だけこれを言っておきたいと思っていて、今日はいいチャンスなので言わせていただきました。本当にありがとう！ いろいろな！ ありがとう！ すみません、個人的に使って申し訳ないです。

いろいろありましたけれども、30年経ったんだな～という今の気持ちですけれども、いつの間にか知らないうちに次々に先輩たちが亡くなってしまって、クラブの最長老になってしまったという現実ですが、私が元気である限りはクラブに続けてお世話になって行こうと思っていますので、皆さん、余さずによくお願いいたします。今日はありがとうございました。

親睦活動委員会 石井 孝行委員長

ここで、ポール・ハリス・フェローの表彰を行います。

ポール・ハリス・フェローとは、毎年、ロータリー財団に100ドル以上を寄付し、1000ドルに達した方が認定されるプログラムです。一人目の表彰者、2回目の認定になります、西村智久君。

(拍手)

続きまして、同じく2回目の認定です、工藤彦夫君。

(拍手)

続きまして、3回目の認定です、尾越弘典君。

(拍手)

続きまして、4回目の認定です、石田博司君。

(拍手)

みなさま、おめでとうございます。

表彰者挨拶

工藤 彦夫君

これは、ただやっていたらもらえるものですよ。だから、みなさん長くいたらこのようにもらえますので、みんな、長くいて長生きして楽しいロータリー生活を楽しみましょう。以上です。

(ご歓談中)

中締めのご挨拶

80周年時会長 木下 正明パスト会長



皆さん、こんばんは。80周年の時に会長を務めさせていただき木下です。

80周年のことをあまり言うと、90周年の会長さんにプレッシャーや先入観などを与えるのは良くないと思います。小船井パストガバナーも抑制的なご講話をいただきました。会長が自由に考えて、その実行委員会が考えるといいのですが、私の話をします。

80周年の会長に決まった時に何を思ったかです。まず、講演者を誰にするかでした。講演で面白い話してくれる有名な方は1年以上前に予約しないと来てくれないでしょう。それと、メインとなる目玉になるものを何にしようか。会場も押さえておかないといけません。ウチは11月なので、台北中央の方が来たら「ゴルフをしたい」と騒ぐので11月の初めの土日に設定することが真っ先に立ちました。結果的に、雪が降ってゴルフはできませんでした。

実行委員会を組織するまでの段取りを会長さんや三役が少し下準備をしなければいけないと思って、あわて

ていろいろなことを考えたのを覚えています。
 内容をその時の会長が考えなければいけないのか、考えなくていいのかが分からなくて、先日亡くなられた浅川一会員が60周年の実行委員長だったので、浅川さんに相談したら「君ならできるよ。好きなようにやりなさい」と。清水先生は、私が相談する前に近くに寄って来て「しょぼいのはダメだぞ、どこかの旭川みたいにしょぼいのは絶対ダメだぞ」と。同じ場面なのでしょうね、同じ時期ですから向こうの80周年が終わって僕の所に来て「あれは最低だな」みたいな感じ。旭川の人は、いろいろな人が来て自分の所にお金を落としてもらうためにロータリーをやっているフシがあるので、あまりロータリーのことを考えていないのです。地区幹事などをやると分かります。そのようなことを少し考えていただいて90周年ができたならいいな。もうひとつは、コロナなどで国際交

流も途絶えたので、自分が会長の時は5回、ロータリーで海外に行ったのですが、大変ですが元に戻すことも必要ではないでしょうか。100周年が控えているので、100周年に向けて90周年をどのような立ち位置にするかも考えるといいかなと思います。
 多分、1年前くらいにならないと動き出さないで、担当になった方の1年は地獄になるのではないかと思いますけれど、皆さんは実力のある方ばかりですので当たった方はできると思います。
 それでは、90周年の大成功を祈念して、来週、発表になるので探りを入れたりして知っている方もいるかもしれませんが、一発で。
 90周年、成功するぞ。ヨーオ（パン）



本日のニコニコ献金

■前田 秀幸君 なゆた、年間優勝しました。ありがとうございます

今年度累計 157,000 円